

第5回四日市市総合計画策定委員会 会議録

■日時：令和元年8月27日（火）10：00～12：05

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

林良嗣委員（委員長）、種橋潤治委員（副委員長）、甘利正晴委員、荒木栄里子委員、上野尚子委員、杉浦礼子委員、田中幸司委員、田端文音委員、中範和委員、野村愛一郎委員、前田明子委員、増沢陽子委員、水谷重信委員、水谷孝子委員、森寺浩一委員、山下智香委員、山原裕美委員、渡邊勝幸委員、館英次委員

■欠席者：

岸村吉偉委員、宮西マリア委員

■議事：

1. 四日市市新総合計画（2020年度～2029年度）素案（案）の検討について
2. その他

1. 四日市市総合計画（2020年度～2029年度）素案（案）の検討について

委員長 ・第2編は、第1部の重点横断戦略プラン（資料2）と第2部の分野別基本政策（資料3）がある。これらは、必ずしも一対一で対応しているわけではなく、重点的に取り組む戦略に対して、各分野の政策が関わっているという仕立てになっている。

・基本計画案について、皆様のご意見をいただきたい。

委員 I ・計画の具体性が非常に増してきた。特に、文化芸術を子どもに継承していくところが新しい。文化芸術を継承していくことは、子どもの豊かな思想を育てることにつながるため、子どもの権利の視点からも、こうした視点が加わったことを評価したい。

・学童保育を含めての保育の質の充実が位置付けられていることは良かった。一方、幼児期からのスポーツに力を入れていくことについては、家での遊びを通して体全体をバランスよく育てることが重要である。ヨーロッパでは、人との関係性や自分を知ることに関心をもち、幼児教育を行っており、そうした中で、コミュニケーション力も培われると思うので、幼児期の教育は知育に偏ることなく、心と体全体の発達に力を入れてほしい。

・三浜文化会館の課題を捉えている点もよく、コンパクトな規模の発表の場は必要である。日常的に文化芸術作品に触れるなどの体験が子ども達の発達につながっていくため、小さい子どもが作品を見る場としても必要だと思う。

・子どもは一つの権利主体であるという考えを前提にしていきたい。例えば不登校についても、すべての子どもに教育を受ける権利があるという考えのもとで、単純に学校に戻すだけではいけないということを教育関係者が考えていかないと、子どもの心に寄り添っていることにはならない。

- ・発達障害について、まだ研究途上ではあるが、その子の特性を見て一人ひとりに合った、社会に適応していけるサポートが必要であるにもかかわらず、現状では十分に理解がないことが気付きである。
- ・資料2 p. 14 に、全市的な施設である子育て・教育の場の提供について記載されているが、今後は高齢者の居場所と同じように、ベビーカーでも行ける身近な場所を利用して、若いお母さんたちが気軽に通えるような子育てサポート施設ができるといいと思っている。例えば、社会福祉協議会と連携して、空き家を活用して、ちょっとしたサポートを受けることができるような施策を検討してほしい。

委員 S

- ・資料2のプロジェクト1について、教育大綱の策定を検討した際に、学力と体力以外に能力、すなわち豊かな人間性というのが大事だと議論したことを思い起こした。資料3でも、豊かな人間性という言葉は触れられており、基本的な生活習慣や規範意識、人間関係構築力、コミュニケーション能力といった表現はあるが、本来豊かな人間性を育むことについての記載が薄く感じられたので、その部分は大切にしていってほしい。
- ・資料2 p. 10 について、先端技術の活用に向けた教育現場の ICT 化は推進していただきたいが、同時に、誰一人取り残されることない学びの場を提供するためにも教員の時間確保に取り組んでいただきたい。
- ・資料2 p. 14、プロジェクト2について、乳幼児期における質の高い保育の提供の具体的な取組の中で、保育現場の改善に力を入れていただいていると思うが、すでに資格を持った方々の質の向上だけではなく、保育所などを目指す学生等にも目を向けて質の向上を意識していかないといけない。
- ・p. 17 の児童虐待防止の取組に関して、今年度から三重県でAIを活用したモデルが進んでいる。過去を分析して虐待の対策や予測をすることは、四日市でも必要なのではないかと。
- ・p. 21 の安心して子どもを預けることのできる環境整備について、統廃合により空いてきた建物を利用して、子どもを安心して預けることができる‘四日市モデル’的な取組を考えてはどうか。市民力を活用したりマッチングできるような場とするのもよい。
- ・p. 22 の仕事と子育ての両立ができる職場環境の実現について、理想的な働き方をしながら子育てができている企業が若いベンチャー企業の中に出てきている。既存の企業に対してハード・ソフト両面で取組を進めることも大事だが、若いベンチャー企業を誘致して四日市に集積するなど新たな視点を取り入れていくことで、良い影響を出していけるとよい。

委員 P

- ・子どもの時期のスポーツについて、どの年齢からターゲットにするかが読み取りづらい。発達の過程で約8歳までに神経系がある程度発達するので、様々な運動やいろいろな刺激を適切な時期に与えることができるよう、子どもに対する教育を考えていく必要がある。

- ・不登校に至る原因を取り除くための施策が望まれる。例えば、子どもの居場所づくりということで、放課後の学校を地域に開放して、地域の方と学習するような環境づくりに取り組んでいただいているかどうか。総合型地域スポーツクラブやコミュニティスクールもそうだが、いろいろな組織の連携が子ども達を含めたつながりを作れるのではないかと感じた。
 - ・重点的横断戦略プランの子育てするなら四日市+（プラス）について、年齢別に整理するなど、もう少し継続的、連続的なイメージができていくようなまとめ方ができないかと感じた。
- 委員 長
- ・専門性の高い各委員が、分野別に検討の過程に入っていただくことで具体化につながっていくと思う。重点的横断戦略プランに加えるとよいという提案もあれば出してほしい。
- 委員 K
- ・観光政策についての方向性はよい。四日市の魅力をどう発信していくか、市民がどう認識しなければいけないかを、具体的に事業展開していく段階でよく検討すべきである。
 - ・資料2 p. 42 にある「みなとまちづくり」について、四日市港を魅力ある場所として、市民、観光客、海外の方々などに様々なイベントを展開するなど観光エリアとして、中心市街地とみなととのつながりを考えながら推進していかなければならない。また、市民は観光資源とは思っていなかったが、実はすごい資源だということがあるので、それを発掘していかなければいけないと思う。
 - ・教育について、小学校、中学校の話はあるが、高校や高専、専門学校、大学などの義務教育以降は市が所管していないので施策が薄い。どのような施策を展開するかは難しい問題であるが、最近、全国的には中高一貫教育がかなり普及していることもあるので、今後、四日市市としてどう考えていくのかを検討すべきである。
- 委員 B
- ・残念ながら市の教育委員会は小中学校しか所管していないため、小中学校の新教育プログラムは出しているが、それ以降の教育については答えられないのではないかと感じた。
- 委員 E
- ・小中一貫教育については調査を進めているが、四日市市では、市内の実業系高校の生徒の皆さんにまちづくりやイベントを手伝っていただくなどの取組を行っている。高等教育の部分にはなかなか入れていないのが現状であるものの、市としては高校との接点は常に持ちあわせていきたいと考えている。
- 委員 A
- ・資料3 p. 13 の四日市市新教育プログラムで、内容のなかに新設された道徳教育も必要なのではないか。人格的な心の基盤ができていないと何をしても身になっていかないのではないかと感じた。非常に大事なことなので、入れていただきたい。
 - ・資料3 p. 7 の放課後等における子どもの居場所づくりについて、四日市市の学童保育所の質を上げていただきたい。これまで民設民営だったのが本市の特徴であり、保護者が運営しているところが非常に多い。運営負担を軽減しつつ、保育の質を高められるよう、経営力、運営についてのサポートが必要である。

- ・学童保育においては、読書だけでなく、スポーツ、文化の体験をすることが、質を上げることにつながっていく。一つの分野、一つの課だけで所管するのではなく、多くの部署が連携することが望まれる。
 - ・小中一貫における教育ということ、それから高校、高専における教育という話について、考え方も異なる公立と私立の一貫教育は分けたいうえで、公立でもできる一貫的な教育を視野に入れる必要がある。
- 委員 長
- ・資料 2 p. 3 の図を 90 度回転させてみると、分野別基本政策とそれに伴った政策が線で結ばれているのでわかりやすい。参考になれば。
- 委員 D
- ・企業誘致を前向きに取り上げている点はよい。一方、中小企業や地場産業の振興について、非常に優れた企業が日の目を浴びていない、隠れている部分があるので、そういったニッチな領域の見える化を図り、引き上げるような施策を打ち出していく必要がある。
 - ・誰もが働きやすい環境づくりについて、中小企業でもいろんな働き方改革の取組に試行錯誤している。仕事があっても働き手がないということで、今いる働き手の負担感が高くなることを補う担い手として、子育てが終わった人、定年退職をした高齢者、外国人労働者などが掲げられるが、今のところ四日市の中小企業では外国人労働者を活発に受け入れている。外国人労働者に対する日本語教育について、市は支援を強化してほしい。
 - ・女性の就労環境の整備について、女性はもちろん男性の方も働きやすい就労環境が中小企業で整備されつつある。
 - ・市内には中小企業が多いので、新しい価値を創造するために、中小企業同士のマッチングなどのサポート支援を進めていくことで、新しい大きな産業を生みだしていけるのではないかと。
- 委員 H
- ・資料 3 p. 36 のみなとまちならではの魅力的な空間について、記載内容は良いと思うが、J R 四日市駅を越えて、J R の線路による市街地との分断をどうやって解消させるつもりか。
 - ・資料 3 p. 40～41 の次世代モビリティなどについて、Uber などに代表されるモビリティをシェアする事業者とどう住み分けを行うのか。サービスの利用者は市が何もなくても増えてくると思われるので、その辺りの対応を検討したほうがよいのではないかと。
 - ・資料 3 p. 45 の中心市街地の活性化を担う主体について、数年後には、ディア四日市がまちづくり会社として一翼を担うことが期待できると思われているので、検討に加えていただきたい。
- 委員 E
- ・J R の高架化事業については、多額の経費が掛かるため中止となった。遠い将来には道路の高架化、道路の地下化などの事業展開はありうるかもしれないが、現時点では踏切等の改良などの対応を行っている。
- 委員 長
- ・Uber は現在のタクシーの代わりになるが、バンコクではもっと小さいトゥクトゥクを改良したような乗り物を中心に利用している。また、シェアという概

念を幅広くとらえて、様々な分野での取組を進めるべきである。日本は規制が多い国であるが、固定概念にとらわれず、実験的なものも含めて四日市市ならではの取組を進めていくべきである。

- 委員 J
- ・資料3 p. 32 にある農林水産業の活性化について、四日市市の農家は家族経営がほとんどで、技術を勉強する時間や経営に目を向ける余裕もないのが実情である。担い手農家の育成や支援、6次産業化なども進めていければいいし、GAPなどの取組も目にしているが、生産物の品質向上の先を見据えていただきたい。奨励してもなかなか取り組む余裕がない現状なので、農家に対してもう少し丁寧に情報を届けていく必要がある。
 - ・空き農地の問題について、‘農地を集約して’という記載があるが、そこに至るまでの細かいプロセスが見えるよう、集約するための計画を練っていただくと農家にも届きやすいと思う。
 - ・資料3 p. 32 の地産地消の推進について、生産者と市民の触れ合う場づくりを進めて、農家と市民が直接対話できる機会が増えていくことを期待する。
- 委員 長
- ・農地のスプロール化を抑制するためには、中心市街地をどう魅力的にするかを考え、あるいは、点在する農村集落の居住者を集約するようなことも広く考えていく必要がある。
- 委員 L
- ・資料3 p. 40 の現状と課題について、交通事業者としては労働者不足、運転手不足が頭の痛い課題となっている。
 - ・慢性的な道路渋滞は課題であり、道路を仕事場にしている交通事業者としては定時性が損なわれるのは避けたい。資料3 p. 42 に‘渋滞が顕著な交差点や中心部周辺の’という記載があり、道路整備に期待をしている。
 - ・一方で、現実的には、ハード面の整備はあまり進んでいかないとと思うので、資料3 p. 42 の真ん中に記載のある、自転車や徒歩などを含めた交通手段というところの意識改革や変化にも期待したい。
 - ・誰しもがストレスなく移動したいという気持ちがあると思うので、事業者としても様々なかわりを持って市民のニーズに対応していきたい。
- 委員 N
- ・資料2 p. 35 について、大企業が多く立地していることもあり、通勤時間帯は生活道路にまで渋滞が発生するなど近隣住民が困っている。交差点ごとに渋滞が起きているので、道路整備をしっかりとやらなければ地域の発展にはつながらない。
 - ・中心市街地の老朽化が進んでいるなかで、近鉄四日市駅東口から飲食店が並ぶエリアや一番街を計画的に発展させるべきである。10年先まで今のまま、ということでは発展は難しい。
 - ・高齢になると自家用車が使えなくなるので中心市街地で生活したい、という市民が多くなっていることを考慮すると、福祉機能を含む総合ビルを駅からすぐ近く場所に立地できるよう、都市計画の面から検討してほしい。岐阜駅の周りには複合ビルがあり、福祉、飲食、高齢者向けの住宅等がまとまっているこ

とも参考にしてほしい。

- ・リニアが開通することで四日市市内の各駅周辺が賑わえば、商業や観光の面ではいいことだと思うが、一方で、市民生活の観点からは、駅の駐輪場や周辺の安全性の向上をハード・ソフト両面で取組んでいかないと公共交通を利用しにくくなる。

委員 K

- ・資料3 p. 36～37 に関して、記載のとおりの方方向性で進めてほしい。
- ・資料2 p. 26 の AI、IoT の新技術の活用、人材育成について、目的はこの通りで良いが、具体的な取組に関する内容が少し薄い。目的を達成するためには具体的にどんなことをやるべきかを議論した方が良い。
- ・中心市街地の活性化について、農業・産業界や地域のみなさんと議論しながら、四日市の中心市街地をどうつくり上げていくかを具体的に議論して進めるべきである。

委員 C

- ・資料2 p. 41 の郊外居住地づくりの目的として、通勤通学に便利な鉄道駅を中心としたまちづくりを進める一方、農村集落の維持・活性化を図るということだが、この2つがどういう関係になっているのか分かりづらい。
- ・人口の集約について、点在する住宅を駅の周りに集めることを念頭に置いてまちづくりを進めていくと、既存集落に住んでいる居住者の数が減ってしまい、かえって集落機能や農地・緑の保全が困難になるのではないか。
- ・資料3 p. 49 のところで、自然共生社会の実現を考えていく上ではエコツーリズムなども重要だが、展開する施策（1）に‘里山・農地の保全にかかわる人づくり’と記載しているように、日常的な自然を維持するためには、農村集落の活性化・維持や里山農地の保全が非常に重要である。
- ・それらも含めて農業政策や環境政策などを推進するべきだが、農村コミュニティの維持と自然環境の保護・保全といった視点をどこかに取り入れてほしい。
- ・温暖化対策とスマートエネルギーの実現について、四日市市では大半を占める産業部門の温室効果ガス排出量を減らしていく必要があるが、そのためには一つの分野だけではなく、工業振興の項目にも文言を加えるなど全体的な表現として記載しておくべきである。
- ・資料3 の p. 52～53 にある上下水道の各項目について、古くなったものの更新には非常にコストがかかり、ネットワークとして上下水道インフラを維持・整備することが大変になってくるが、今回のテーマであるコンパクトシティ+ネットワークの概念を考え、今後の上下水道をどうするか方向性を示すべきである。

委員 E

- ・資料2 の p. 41 の表現が少し誤解を招いたかもしれない。既存集落の機能を維持するため、あるいは農地を守っていくためには人口を維持する必要があることから、駅周辺の利便性を向上しようとする考えであり、その際は、市街化調整区域である既存集落でもインフラをある程度維持していくとともに、市街化調整区域にある鉄道駅についても、インフラを活用して面的な整備を検討して

いきたい。

- 委員 C
 - ・また、四日市市の都市構造上、郊外の農村集落とはまた違う形で鉄道駅を活用した土地利用の可能性を記載している。決して既存集落から人を吸い上げて、駅周辺へ移住をとという意味合いはないので、表現を少し工夫したい。
 - ・総合計画の前提として、人口がいま以上に増えないなかで、未来永劫、農村集落が維持できるかは別の問題である。いずれにしても、人と物の流れだった関係を一緒に考えていく必要がある。
- 委員長
 - ・気候変動などという表現があるが、気候危機という言葉に変えようという動きもある。そういった中で、都市周辺の農地や自然の緑をどう維持していくかは大きな課題である。これだけ大きな課題を単独のプロジェクトにまとめることに限界もあるため、より大きな上位概念のもとで政策を考えていけるとよい。
- 委員 B
 - ・コンパクトシティの概念について良くわからない部分がある。四日市の場合には中心にある市街地を中心として半径何 km 圏内にまとめるということコンパクトシティというのか。
- 委員 E
 - ・四日市市は、臨海部から笹川団地や三重団地あたりまでが市街化区域になっていて、昔からのまちや住宅団地がこれに当てはまる。それ以外の農村集落は市街化調整区域に位置している。
 - ・市街化調整区域では、昔は町役場や村役場などがあった拠点を中心に集落が形成され、また、住居が農地の中に点在しているところもある。大きな流れとして、これから人口が減少していく中では、公共施設等を都市の中心に集約して、生活の場を中心の方に徐々にシフトしていく、いわゆるコンパクトシティを推進していく必要がある。
- 委員 B
 - ・四日市市は、海側では浸水や高潮の被害が懸念されるなかで、中心市街地に西側の人まで集約しようとするのは問題があるように思う。例えば、観光資源を活用して、湯の山線を中心とした都市づくりを行うことも考えていただきたい。
 - ・資料 3 p. 60 の（2）で、地域防災力の向上について、地域の防災を担える人が少なくなっており、地域の担い手をいかに育てるのが大事なことだと思う。具体的にどのように地域の担い手不足や人材育成に対応していくか、もう少し検討を加えていただきたい。
 - ・南海トラフに対してあらゆる想定をしていかなければいけない。想定外を作らないという観点から、神前地区に 2.5ha に及ぶ防災拠点が整備されることを評価している。いざ必要となった際には、この防災拠点に仮設住宅を建てられるような内容にしていきたい。
 - ・資料 3 p. 63 については、きちんとまとめてあるのでこれで良いと思うが、数千円から数万円で家族の命を守ることができる家具固定の効果をもっと周知するとともに、地域ぐるみで推進するための補助制度を位置付けるなど、もう少し具体的にしていきたい。寝室に家具を置かない世帯の率などを指標に

用いるのもよい。

- 委員 M
- ・資料3 p. 74~75 のまちづくりの担い手ということに関して、これからどう生きていくかを考えた時に、子育てをして、運動をして、まちづくりの担い手として活動して、という期待をされると、大変さのあまりワクワクというよりどんよりした気持ちになる。各専門分野で新しい世代の担い手をどう確保するかは考えているだろうが、一人ひとりの負担はすごく大きくなっていくと思う。
 - ・地域コミュニティの基盤強化について、昨年度、私も地域づくりマイスター養成講座というのを受講したが、様々な人が参加しているなかで、学生は二人しかいなかった。地域に携わっていくための講座だったのだが、枠が広すぎて、私は分からないことも、経験している人はすんなり理解されて、少し追いつかれる気分だった。講座ごとの対象者を絞る必要があると思う。
- 委員 F
- ・資料3 p. 86~87 の健康な体づくりの習慣化については、この内容で進めればよいと思う。
 - ・資料3 p. 75 の（4）では人生100年時代ということで、生涯学習機会の支援をしていただけると良い。
 - ・資料2 p. 54 のオープンエアジム中央緑地は、とてもいい。今回導入したP-PFI方式は、健康づくりへの取組を促す効果もあるので、完成後は利用してみたい。
 - ・資料2 p. 43 のオアシス再編もやっていただきたいし、資料2 p. 44 のところも素晴らしい。身近なところで健康づくりができるようになる。
 - ・資料3 p. 86 以降に認知症の話が出てくるが、認知症の予防には人と話すことや運動することが重要だといわれている。認知症にならないための予防対策をさらに盛り込んでいけるとよい。
 - ・資料2 p. 31 の新図書館についても、家族連れで行ける施設ができることは良いと思う。
- 委員 O
- ・認知症について、10年後に向けて考えるのであれば、若年性認知症への対応についても考慮する必要がある。これを加えることで、人に温かい計画になると思う。
- 委員 R
- ・いろんな立場や年齢層の市民が活躍できるまちが理想だが、その中の一つに働くということがある。企業側でも高齢者の雇用、ダブルワークなどいろんな働き方をしたいという希望に沿った環境が整えられると、働くことによって健康維持をしたり、社会とのつながりが持てたりと、様々な効果が期待できる。
 - ・策定委員会で多様な案が出されているが、それらが四日市市内の企業や市民に伝わり、社会を変えていく動きが出てくることを期待する。企業や市民の意識を高めるためにも情報の発信・浸透が必要である。
- 委員 T
- ・資料3 p. 16~17 について、すごくまとまっていて良いが、小規模文化ホールを建てる時には、交通手段や駐車場のことを考えていただきたい。
 - ・市内各地区でそれぞれの文化を育むような組織や仕組みができると素晴らしい。

委員長 ・次回、四日市未来ビジョンと将来都市像について、各政策との関係性のなかで、どのようにまちづくりへつなげていくか、イメージが分かるような資料を用意してほしい。

2. その他

・次回委員会を 10/29(火) 15 : 00～17 : 00 で開催。

以上